



イタルダ インフォメーション

ITARDA INFORMATION

2011年
特別号
秋

<http://www.itarda.or.jp>

夜間の高齢歩行者死亡事故

～夜に出歩く時は明るい服装、反射材の着用を心がけよう～

全交通事故死者の4分の1が、65歳以上の高齢歩行者です

官民挙げての交通安全対策の効果によって近年の交通事故死者数は、着実に減少を続けています。しかし、歩行中の死者数の減少率は他に比べ低く、特に65歳以上の歩行者（以下・高齢歩行者）の死者数の割合が高くなっています。図1は平成22年中の交通事故死者4,863人を年齢層と交通手段別に分けて示したものです。これを見ると65歳以上で歩行中に事故に遭って死亡した方が1,228人と最も多く、全交通事故死者の約25%を占めています。これらの方々に対する事故防止対策が喫緊の課題といえます。

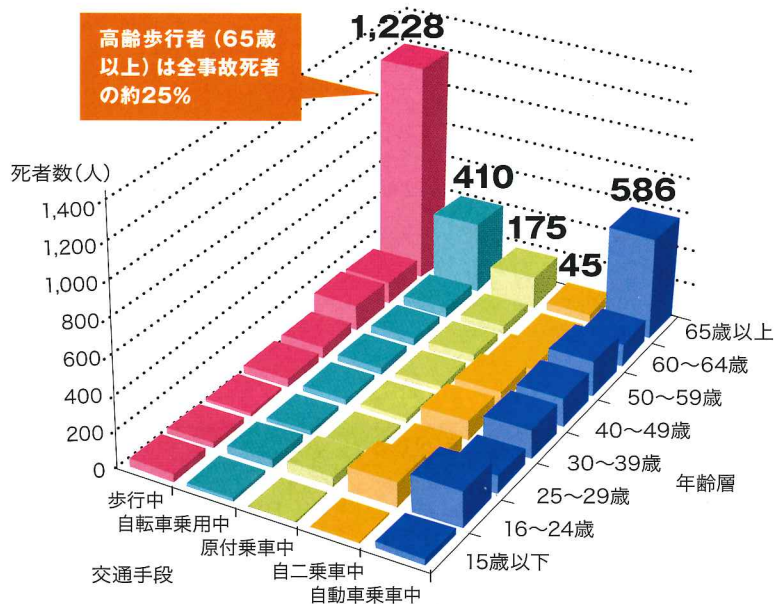


図1 年齢層別・交通手段別死者数（平成22年）

平成22年中の交通事故死者 4,863人

財団法人交通事故総合分析センターは、交通事故と「人間」「道路」「車両」について、科学的・総合的な調査・分析や研究をおこなって交通事故の防止と被害の軽減を図り、快適な道路交通環境の実現に寄与することを目的に設立されました。

つくば市には交通事故総合分析センターの「交通事故調査事務所」があります。つくば事務所では、実際の事故現場で事故の状況を調査していますが、この事故調査は交通事故の低減を目的とした調査・研究のためのもので、警察の捜査や保険会社の調査とは全く別のものです。



調査中の事故調査員



財団法人 交通事故総合分析センター
Institute for Traffic Accident Research and Data Analysis

17時から20時にかけて事故が多発している



歩行中の死者数を昼夜別に見ると(図2)高齢歩行者の夜間の死者数は昼間の約2倍になっています。発生時間帯で見ると(図3)高齢歩行者の死者は17時から20時までの3時間に多発しています。

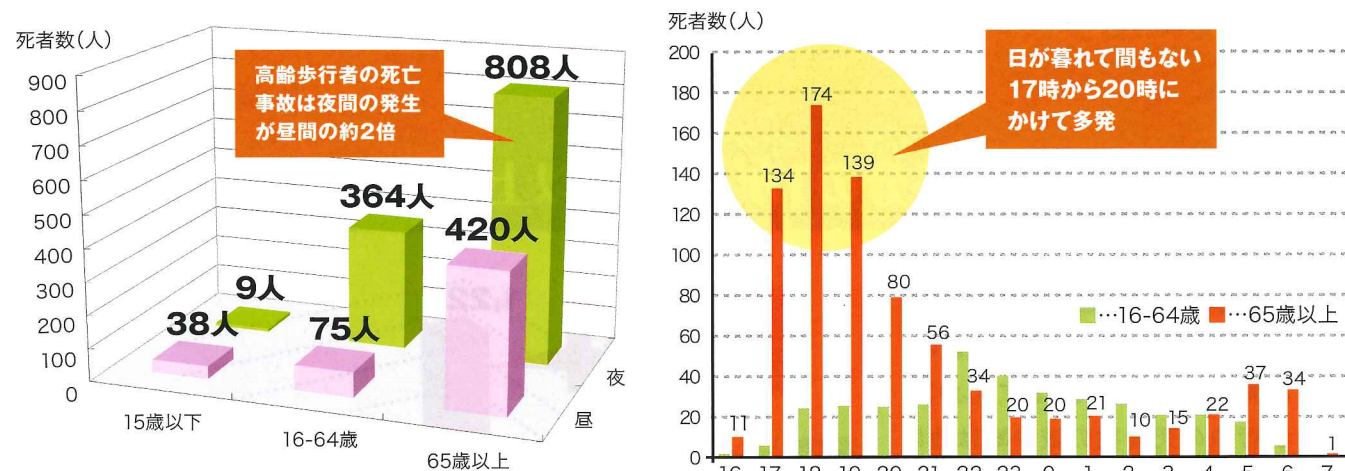


図2 昼夜別歩行中死者数 (平成22年)

平成22年中の歩行中死者 1,714人

(注)「昼」とは日の出から日没までをいう。「夜」とは日没から日の出までをいう。「日の出」又は「日没」の時刻は、気象庁(台)の発表を参考とする。

図3 発生時間帯別夜間歩行中死者数 (平成22年)

平成22年中の夜間歩行中死者(65歳以上) 808人

夜間は、ドライバーから発見されにくい

「夜間に横断歩道以外の単路を横断中に四輪車と衝突」した高齢歩行者の死者240人をドライバー側の事故原因から分析したところ、約9割(220人)のドライバーが歩行者を発見するのが遅れたために事故を起こしていた事が分かりました。

発見が遅れた直接の原因は、「脇見による前方不注視」や「考え事などの漫然運転」など、ほとんどがドライバーの不注意によるものですが、夜間はドライバーから見て道路を横断する歩行者を発見しにくい状況であることも原因となっています。特に暗い色の服装をした歩行者は明るい色の服装に比べてドライバーから発見されにくく、事故に遭いやすい傾向にあります。

反射材を着用するか目立つ服装だと夜間でもドライバーから発見され易い



写真1は白色ジャンパーを着用した人と黒色の上下を着用した人が夜間にドライバーからどのように見えるのかを比較したものです。約40メートルの距離からヘッドライトを下向きに照射しましたが、白色ジャンパーを着用した人は遠方からでも非常に目立ち、ドライバーから発見され易いことが分かります。

一方、黒色の上下を着用した人はほとんど視認出来ませんでした。夜間に暗い色の服装で道路を横断することは、ドライバーから発見されにくく大変危険な行為であり、白色や黄色等の明るい色の「目立つ服装」をすることにより、ドライバーから発見され易くなるといえます。

次に「反射材」を暗い色の服を着た2名の歩行者のうち1名だけに着用させて40メートルの距離から車のヘッドライトを下向きに照射し、ドライバーからどのように見えるのかを比較してみました(写真2)。

実験に使用した反射材は市販のリストバンドタイプのもです。その結果、反射材を着用した人は遠方からでも非常に目立ち、ドライバーから発見され易いことが分かりました。

一方、反射材を着用していない人はほとんど視認出来ませんでした。

写真1



写真2



交通事故調査へのご協力をお願いいたします。

おわりに

高齢歩行者の死亡事故は17時～20時にかけて多発しています。前方不注意や漫然運転などでドライバーが歩行者を発見するのが遅れたことが主たる原因ですが、夜間は歩行者の服装の色などにより歩行者が見えにくい状況も発見の遅れに影響しています。

そこで、各々の立場から注意する点をまとめてみました。

ドライバー側の注意点

- ・横断中の歩行者（特に夜間・高齢者）と衝突する死亡事故が多発していることを認識し、運転する時は集中して事故防止に努める。
- ・暗くなり始めたら早めにヘッドライトを点灯し、自車の存在を目立たせる。
- ・走行中は常に視野を広く保ち、特に道路の左右方向から横断してくる歩行者がいないか注意する。

歩行者側の注意点

- ・夜間の外出時は反射材を着用するか、白い服装など夜間でも目立つ工夫をする。
- ・遠くに見えても車は速いものです。横断する時は、左右からの車に十分注意し、できるだけ横断歩道を渡りましょう。

財団法人 交通事故総合分析センター

財団法人交通事故総合分析センターは、平成4年（1992年）に警察庁、運輸省（当時）、建設省（当時）からの設立許可を受け設立された道路交通法に基づき国家公安委員会の指定をうけた、交通事故の防止と被害の軽減のための調査・分析を行っている日本で唯一の研究機関です。



交通事故総合分析センターの調査車両は緊急自動車に指定されています

お問合せ先

財団法人交通事故総合分析センター

●ホームページ <http://www.itarda.or.jp> ●Eメール koho@itarda.or.jp

つくば交通事故調査事務所

〒305-0831

つくば市西大橋641-1（財）日本自動車研究所内

TEL029-855-9021 / FAX029-855-9131

事務局

〒102-0083

東京都千代田区麹町6-6 麹町東急ビル5階

TEL03-3515-2525 / FAX03-3515-2519